

GMS ミッション機能について

S52. 6. 1
宇宙開発事業団

名 称	目 的	主 要 性 能		
1. 可視・赤外 走査放射計 (VISSR)	静止衛星高度から地球表面 を可視及び赤外スペクトルで 観測し、雲の状態、温度 分布、雲の高さ等を観測す		可視チャンネル	赤外チャンネル
		検知器 波長域 検出素子数 瞬時視野角 衛星直下地上 分解能 1画像当りの 走査線数 1画像の観測 時間 観測可能時	7x7マルチプライア 0.5~0.75マイクロン 4ヶ(+4ヶ冗長) 35x31マイクロラジアン 1.25 Km 2500x4本 25分 日照地域のみ 観測可能	水銀カシヨムテル 10.5~12.5マイクロン 1ヶ(+1ヶ冗長) 140x140マイクロラジアン 5 Km 2,500本 25分 日照・夜間地域 ともに観測可能
2. 宇宙環境モニタ (SEM)	静止衛星軌道に太陽から 到達するエネルギー粒子を測定 す	1. プロトン 1~500メガエレクトロンボルトの周を7段階に分け、 夫々のエネルギーレベル毎に到来する粒子数を 観測する。 2. アルファ粒子 8~390メガエレクトロンボルトの周を5段階に分け、 夫々のエネルギーレベル毎に到来する粒子数を 観測する。 3. エレクトロン 2メガエレクトロンボルト以上のエネルギー粒子の到来 数を観測する。		
3. UHF通信系を 使った資料収集	離島、海洋ブイ、船舶等に 置かれた通報局で観測した 資料を衛星経由で収集す	周波数 衛星から通報局への送信 468.75~468.95 (MHz) 衛星で通報局からの受信 402.0~402.4 送信電力 8W 雑音指数 7.0dB 使用周波数は通報局呼出し(送信)、報告受信 とともに各静止気象衛星共通(国際)チャンネルと 個別チャンネルに別れ、船舶等移動局用国際 チャンネルとして33チャンネルを用意し、個別 チャンネルとして100チャンネルを用意している。 この運用については静止気象衛星調整会議の 場で調整が進められている。		

名 称	目 的	主 要 性 能
4. Sバンド通信系を使った中規模利用局向けの高解能マルチ放送。	域内の中規模利用局の施設を備えた気象中継に高解能雲画像を送る。	GMSが観測した時の解能をあまり落さないで利用局に送るように、1MHzの帯域中を使い13分間で1枚の画像を送る。
5. Sバンド通信系を使った小規模利用局向けの低解能マルチ放送	域内の小規模利用局の施設を備えた多くの気象機関に低解能雲画像を送る。	既存のAPT受信施設にわずかな追加設備を施すことにより、または少ない設備費でGMSが観測した雲画像を利用できるように、26kHzまたは260kHzの帯域中を使い3.5分間で1枚の画像を送る。